

植生史学会・花粉学会合同大会の開催

去る9月30日から10月3日、奈文研の共催事業として、日本植生史学会・日本花粉学会の合同大会が、平城宮跡資料館講堂およびオンラインによるハイブリッド方式で開催されました。今回の大会は、「植物」を対象とする隣接した分野の二つの学会が、過去・現在・未来について研究発表会をおこないました。両学会の新たな発展につなげていこうとする初めての試みでした。

10月1日には、『奈良の森と花粉と人のいま・むかし』と題した2部構成の公開シンポジウムをおこないました。第1部は、「古都奈良の植生と木材利用」というテーマで、古代を中心に奈良盆地周辺の植生や平城京での木材利用について、近年の花粉分析や樹種同定の成果をもとに議論しました。第2部は「奈良の森林利用と花粉症の過去・現在・未来」というテーマで、民俗学的な吉野の木材利用、気象の側面から花粉の飛散状況や医学的な花粉症治療の現状が議論されました。

10月3日は、エクスカーションとして大阪産業大学・前迫ゆり教授(生態学・植生学)を講師に迎え、春日山原始林を見学しました。長年にわたり春日山原始林を生態調査されている前迫先生の解説を聞きながら、ここ数十年の春日山原始林の変遷を体感できるエクスカーションでした。

今回の研究発表・シンポジウム・エクスカーションを通じて、当該分野の研究者の一人として、植物遺体を対象とした研究の重要性を再認識しました。今後の研究の進展に寄与できればと思います。

(客員研究員 上中 央子)



春日山原始林エクスカーションの様子

「ニコニコ美術館」生配信

10月31日と11月12日、ニコニコ動画内公式チャンネル「ニコニコ美術館」にて、「奈文研編」「平城宮跡編」の二回にわたって奈良文化財研究所を特集した生配信がおこなわれました。

第1回の奈文研編では、高妻洋成副所長による奈文研の組織紹介をはじめ、史料研究室、歴史研究室、国際遺跡研究室等を訪問。平城宮跡での発掘調査に加え、古文書や海外の遺跡等奈文研の携わる幅広い研究事業について紹介しました。後半は平城宮跡資料館にて「地下の正倉院展—平城木簡年代記《クロニクル》—」を解説。普段見ることのない研究員たちの仕事場や熱の入ったトークに、リアルタイムでの視聴者コメントも盛り上りました。

第2回の平城宮跡編では、建築や瓦、歴史の研究員が解説をおこないました。まずは朱雀門を出発し、今年竣工したばかりの大極門へ。第二次大極殿跡、奈良時代の主要排水路「東大溝」等を巡り、朱雀門ひろばに建つ「平城宮いざない館」では「のこった奇跡 のこした軌跡—未来につなぐ平城宮跡—」展を紹介しました。両配信ともに約5時間にわたる大長編となり、ライブ視聴者数は第1回が2.3万人、第2回が1.9万人、番組内アンケートでは最高評価が97%を超える等好評をいただきました。視聴者からは「堅苦しいイメージの研究所を身近に感じられた」との感想も寄せられ、今まで馴染みのなかった方にも奈文研・平城宮跡に興味を持っていただく機会となったのではないでしょうか。番組はどなたでもパソコンやスマートフォンから視聴できますので、ぜひアクセスしてみてください。

(企画調整部 下山 千尋)



第二次大極殿跡での撮影風景